

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

セーフティネットとして、生徒にとって安全で安心な居場所であり、将来の自立や社会参画するための能力が身につくキャリア教育を充実させた学校をめざす。

- 1 個に応じた指導の工夫に努め、自己肯定感と自己効力感の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育み、自己有用感の向上を図る。

## 2 中期的目標

定時制の課程かつ普通科において完全単位制である唯一の学校として、多様な価値観を認め、『生徒に付けさせたい力』を全教職員で共有し、生徒の自己肯定感・自己効力感や社会に貢献する力・自己有用感を育成する学校づくりを推進する。

## 1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

- ア 教科を通じて育てたいコンピテンシーを明確化して、観点別学習評価とともに生徒自身による自己評価など様々な評価の充実に向けた組織的な取組みを推進する。
- イ 協働学習を軸とした生徒が主体的に学びに向かう授業を展開するために組織的な取組みを推進する。
- ウ 授業アンケート等を効果的に活用し、1人1台端末の活用や校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率を令和9年度まで85%以上を維持する。(R4:89% R5:92% R6:86%)
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「自分の考えをまとめたり、発表する」の肯定率を令和9年度までに80%以上とする。(R4:77% R5:80% R6:76%)
  - ※教員向け学校教育自己診断における「授業改善に努めている」の肯定率を令和9年度までには90%以上を維持する。(R4:90% R5:71% R6:100%)

## 2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

- ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。
- イ 一人ひとりの希望する進路実現するため、適切な進路情報を提供し、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。
- ウ 日本語指導の必要な生徒の対応として、日本語指導の授業の充実させるための組織的な取組みを推進する。
  - ※教員向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:90% R5:100% R6:100%)
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率を令和9年度までに90%以上とする。(R4:93% R5:89% R6:87%)
  - ※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報を提供する努力をしている」の肯定率を令和9年度までに85%以上とする。(R4:100% R5:63% R6:80%)
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「進路の情報を知らせてくれる」の肯定率を令和9年度までに90%以上とする。(R4:89% R5:92% R6:89%)
  - ※教員向け学校教育自己診断における「生徒や保護者のニーズにあった特色がある」の肯定率を令和9年度までに95%以上とする。(R4:95% R5:94% R6:94%)

## 3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 学校生活全体を通して、生徒の自己肯定感や自己効力感や自己有用感を醸成する。

- ア 授業だけでなく、行事や生徒会活動、ホームルーム活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。
- イ コミュニケーション能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのは楽しい」の肯定率を令和9年度までに80%以上とする。(R4:78% R5:83% R6:76%)
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「あいさつができています」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:90% R5:89% R6:92%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

- ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- イ 心豊かな「社会の一員」となるよう、他者や地域等と連携しながら多様な価値観を育む教育を推進する。
- ウ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する。
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「人権学習の機会」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:96% R5:95% R6:92%)
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「人々と関わる機会」の肯定率を令和9年度までに80%以上とする。(R4:73% R5:76% R6:77%)
  - ※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:91% R5:93% R6:97%)

## 4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

- ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び桃定プロジェクト会議、運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営を推進する。
- イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。
- ウ 様々な課題を持った生徒を受け入れるカリキュラムを構築するために組織的な取組みを推進する。
  - ※教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員が意欲的に取り組める環境」の肯定率を令和9年度まで80%以上を維持する。(R4:65% R5:77% R6:87.5%)
  - ※教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員の意見が反映」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:75% R5:88% R6:100%)
  - ※教職員向け学校教育自己診断における項目「教育活動についてよく話し合っている」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:85% R5:82% R6:100%)
  - ※令和9年度までに、入学生40人、在校生を130人とする。(R4:97人 R5:108人 R6:109人)

(2) 次代を支える教員(ミドルリーダー)の育成を図る。

- ア OJTや教員の研修報告などを通して、人材の育成を図る。
  - ※経験年数の少ない教職員を対象とした自主研修や懇話会を年3回以上実施し、肯定率を80%以上とする(R6:5回、100%)
  - ※教職員向け学校教育自己診断「研修成果伝達機会の設定」肯定率80%以上を維持する。(R4:65% R5:70% R6:81%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 総括</p> <p>①生徒の全体的な肯定率は 90.1%→85.8% とやや低下したが、依然として高い水準を維持している。</p> <p>②特色ある取組、安全・人権・個人情報、相談体制は生徒・保護者・教職員の全てから高評価。</p> <p>③本校の独自性や特色に関する肯定率が高く、コンピテンシー育成・日本語指導の充実を引き続き推進していく。</p> <p>④生徒指導や相談面においては、教員の丁寧な指導の結果、数値も大きく上昇。</p> <p>⑤生徒・保護者ともに「授業の面白さ」や「登校の楽しさ」に課題が見られるが、その一方、協働学習やコンピテンシーの定着の成果として、「人と関わる機会」と「主体的に活動する時間」の項目が上昇。</p> <p>⑥新規項目である生徒「頑張った／役に立った」体験の実感向上に向けて、学校生活全般を通して、自己肯定感や自己効力感・自己有用感を高める工夫をしていきたい。</p> <p>⑦教職員については、36項目中29項目で肯定率100%、それ以外も90%前後と高い数値を示している。組織基盤（会議機能、外部連携等）が着実に強化されており、改善の基盤は整っている。</p> <p>2 強み</p> <p>①学校の「特色」を生かした教育活動：生徒 90.7%、保護者 100%</p> <p>②生徒：防災周知 93.2%/個人情報 90.7%、保護者：個人情報 100%</p> <p>③人権・命の教育：生徒 89%、保護者 97%</p> <p>④相談体制：保護者 100%、生徒 83.8%</p> <p>⑤教職員の連携・会議機能・迅速対応：90～100%で維持・向上</p> <p>3 課題</p> <p>①授業の面白さの実感：生徒 81.6%、保護者 57.1%</p> <p>②登校の楽しさ：生徒 73.7%、保護者 46.7%</p> <p>③「頑張った／役に立った」と感じる体験（新規）：生徒 64.0%</p> <p>④保護者の参観・参加機会：53.8%</p> <p>4 来年度の重点</p> <p>①授業の価値実感を高める 協働学習の質を高め、生徒が主体的に学ぶことで「面白い」「役に立つ」を実感できる授業を実現し、学習意欲と登校満足度の向上を図る。</p> <p>②コンピテンシーの“見える化” 授業を含め学校生活全般の学びを通して身につく力を、生徒自身が実感できるよう、取組み内容を再検討し体系化する。</p> <p>③生徒・保護者エンゲージメントの拡充 学校生活・行事・進路情報などを適宜発信し、生徒・保護者の学校理解・授業理解を一層深める。協働学習のねらいを、生徒と保護者により分かりやすく伝えられるよう、目的や意図の周知方法を改善していきたい。</p>	<p>第1回 学校運営協議会 令和7年 7月 18日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ではやさしい日本語のテキストを使って、N5を合格したあと普通教室に戻している。その後どう指導していくか悩んでいる。どこまでできれば授業に戻すのか。</li> <li>→本校では N3 レベルがないと普通の授業に入っていくのは難しいと判断している。ただ、特別の教育課程を含め、授業は本人の意向に任せているため、教科担当者が指導内容や教材等を工夫して対応しており、負担は増加している。</li> <li>・コンピテンシーの取組みについて、生徒自身の自己評価の形式で行っているのは面白い。教員から生徒の自己評価についてどのようなアプローチがあるのか。</li> <li>→現在試行中であるが、個人面談等で自己肯定感や自己効力感の向上をめざしている。</li> <li>・日本語指導の必要な生徒たちの進路の状況は？</li> <li>→日本語指導が必要な生徒は在留資格によって就職や進学先が限られてくる。昨年度、斡旋就職で受験した生徒が日本語にルビがなかったりしてなかなか力が発揮されず自己就職につながった。プロジェクトチームで何ができ、どう対応するのかを検討中である。</li> <li>・新入生の入学増につながっているが、今年度の入学者の様子や状況等は？</li> <li>→配慮を必要とする生徒の単位修得や学校定着につながっている実績があるため、同じ中学から何年か続けて入学してきている。不登校だった生徒も多いが同じ波長でうまくやっている生徒も多い。前期もこのままだと単位修得できる生徒が多い。</li> </ul> <p>第2回 学校運営協議会 令和7年 12月 12日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導の報告を聞いて、自分自身が地域で聞く状況に比べると、かなり充実していると改めて感心しました。</li> <li>・生野区の日本語指導の実態について 教員免許ない方で、小学校と同じカリキュラムを実施している。ただ、対象児童が増えており、飽和状態。日本語学校（8校中3校と連携）の指導方法を学ぶことも大事、地域連携の強化をめざしてほしい。</li> <li>・定時制における取り組みは、回を重ねるごとに大きく進展しており、授業の在り方も改善されています。また、廊下などには学校として育成しているコンピテンシーの様子が掲示され、生徒や来校者にとって分かりやすい環境であると感じた。</li> <li>・日本語指導の教員免許を取得できる大学も増加している。関大や近大の学生で協力できることがあれば、尽力していただけるとのこと。</li> </ul> <p>第3回 学校運営協議会 令和8年 2月 9日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働学習でうまくいった事例、うまくいかなかった事例は？</li> <li>→コミュニケーションが難しい生徒も多く、成立しない場面があった。一方で、自己紹介や意見交換から入ることで意欲が高まった例もある。来年度は多様なコミュニケーション形態を踏まえて改善する。</li> <li>・広報の強化として、生野区としても連携していけることがあれば協力したい。</li> <li>→来年度、生徒が出身中学校を訪問して活動を伝える取り組みを検討している。その他の連携についても検討していきたい</li> <li>・日本語能力が乏しい生徒が増えていると聞いた。単位修得や卒業はどうか？</li> <li>→日本語力が極めて低い生徒の増加は最近のことであり、進路等を選択する時期は今後のことでデータの分析できていない。日本語能力が乏しい生徒には、まず学校生活に必要な日本語力を育成しつつ、一般科目に参加しながら卒業・進路実現を支援する体制を整えている。</li> <li>・学校生活の満足度が高まっているようだが、年次によって違いがあるのかななどを教えて欲しい。</li> <li>→中卒生徒が多い1年生はガイダンスを通じて関係づくりが進んだ。学校の特色を生かし、いろいろな先生と関わり、相談できる環境が効果を高めており、不登校経験者が皆勤になる例もある。</li> <li>・防災の観点で、災害が起これば非難場所になる可能性もあるので、災害対応訓練を区役所と連携してほしい。</li> <li>→校内で検討中であり、来年度に詳細を案内する予定。</li> <li>・コンピテンシーの取組みについてはどうか？</li> <li>→今年度は『コンピテンシー』という用語理解や、自己評価が計画通り実施できた。次年度は授業で、生徒にコンピテンシーの目的をよりわかりやすい言葉で説明し、理解と意識づけを強化する。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1) 授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 教科を通じて育てたいコンピテンシーを明確化して、観点別学習評価とともに生徒自身による自己評価など様々な評価の充実に向けた組織的な取組みを推進する。</p> <p>イ 協働学習を軸とした生徒が主体的に学びに向かう授業を展開するために組織的な取組みを推進する。</p> <p>ウ 授業アンケート等を効果的に活用し、1人1台端末の活用や校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・「授業研究チーム」を核として、学校全体を通じて育むコンピテンシーと教科を通じて育むコンピテンシーを明確にし、学校ホームページに掲載するなど生徒・保護者に分かりやすく視覚化する。</p> <p>イウ・教員を少人数のグループに分け、各グループ内で相互授業見学の機会を設け、協働学習を軸とした生徒主体の授業やICTの活用、観点別学習評価などの様々な評価に対する授業意見交換を行い、教員の授業力を高め、授業改善につなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>アイウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率85%以上を維持する。[86%]</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「自分の考えをまとめたり、発表する」の肯定率78%以上とする。[76%]</li> <li>・教員向け学校教育自己診断における「授業改善に努めている」の肯定率85%を維持する。[100%]</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>アイウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 82%(○)</li> <li>※他者との関わりを苦手とする生徒の課題克服を踏まえ、協働学習を取り入れる授業改革を進行中であり、肯定的な評価は目標値並みにとどまった。</li> <li>・「自分の考えをまとめ発表する」肯定率 85%(◎)</li> <li>・「授業改善に努めている」肯定率 100%(◎)</li> </ul>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。</p> <p>ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。</p> <p>イ 一人ひとりの希望する進路実現するため、適切な進路情報を提供し、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。</p> <p>ウ 日本語指導の必要な生徒の対応として、日本語指導の授業を充実させるための組織的な取組みを推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒理解を深めるため、家庭、中学校、前籍校、SCやSSW、居場所事業、事務室等と連携し、生徒支援の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談等を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。</li> <li>・保護者等の連絡を充実させるため、新たな仕組みを検討し、導入する。</li> </ul> <p>イ・進路に対する意識を高めるため、キャリアパスポートを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路情報を適切に提供するため、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導、進路HRなどを実施し、進路だよりを定期的に発行する。</li> </ul> <p>ウ「日本語指導チーム」を起ち上げ、教員の誰もが日本語指導の授業ができるように、教材や授業内容のパッケージ化させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率85%以上を維持する。[100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断における「気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率85%以上を維持する。[87%]</li> <li>・保護者向け学校教育自己診断における「教育情報を提供する努力をしている」の肯定率82%以上とする。[80%]</li> </ul> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「進路の情報を知らせてくれる」の肯定率90%以上とする。[89%]</p> <p>ウ・教員向け学校教育自己診断における「生徒や保護者のニーズにあった特色がある」の肯定率95%以上とする。[94%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「教職員のカウンセリングマインド」肯定率 100%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談できる先生がいる」肯定率84%(○)</li> <li>※目標値並みにとどまった。</li> <li>・「教育情報を提供する努力をしている」の肯定率87%(◎)</li> </ul> <p>イ・「進路の情報を知らせてくれる」肯定率88%(○)</p> <p>※目標値並みにとどまった。</p> <p>ウ・「生徒や保護者のニーズにあった特色がある」肯定率100%(◎)</p>

## 府立桃谷高等学校 定時制の過程

<p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 学校生活全体を通して、生徒の自己肯定感や自己効力感や自己有用感を醸成する。</p> <p>ア・授業だけでなく、行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。</p> <p>イ・コミュニケーション能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。</p> <p>(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。</p> <p>ア・様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>イ・心豊かな「社会の一員」となるよう、他者や地域等と連携しながら多様な価値観を育む教育を推進する。</p> <p>ウ・災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校行事全体で、生徒が高い満足度を得られるよう一層の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間やLHRの実施内容や実施方法を、生徒の学校への帰属意識がより高まるようなものとする。</li> <li>生徒会活動や部活動について、多くの生徒が主体的に参加できるよう工夫する。</li> </ul> <p>イ・登下校時の「あいさつ運動」に取り組み、あらゆる場面における挨拶の励行。</p> <p>(2)</p> <p>ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。</p> <p>イ・行事や授業などを通じて、生徒が多様な人と関わりを持ち、バランスよく学習できるよう工夫する。</p> <p>ウ・併置する通信制の課程との連携を含めた実践的な避難訓練を実施するとともに、訓練以外の方法での周知も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜間の避難に対応できるよう、校内掲示等、安全対策を充実させる。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのは楽しい」の肯定率78%以上とする。[76%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「あいさつができています」の肯定率90%以上を維持する。[92%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「人権学習の機会」の肯定率90%以上を維持する。[92%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「人々と関わる機会」の肯定率78%以上とする。[77%]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」の肯定率90%以上を維持する。[97%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「学校に行くのが楽しい」肯定率 74%(○) ※課題を抱える生徒の入学増に伴い、生徒間トラブルも増加したが、自己診断における「先生の指導は理解できる」の肯定率は、生徒92%、保護者100%と目標値並みにとどまった。</p> <p>イ・「あいさつができています」肯定率(81)△</p> <p>(2)</p> <p>ア・「人権学習の機会」肯定率 89%(○) ※目標値並みにとどまった。</p> <p>イ・「人々と関わる機会」肯定率 80%(○)</p> <p>ウ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」肯定率 89%(○) ※目標値並みにとどまった。</p>
--	---	--	---	--

## 府立桃谷高等学校 定時制の過程

<p>4 学校運営体制の確立及び人材の育成</p>	<p>(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。</p> <p>ア・「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び桃定プロジェクト会議、運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営を推進する。</p> <p>イ・分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図り、働き方改革を進める。</p> <p>ウ・様々な課題を持った生徒を受け入れるカリキュラムを構築するために組織的な取組みを推進する。</p> <p>(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー）の育成を図る。</p> <p>ア・OJT や教員の研修報告などを通して、人材の育成を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・業務量や業務上の責任の分散を図るため、校内組織や校内人事の見直しを行う。</p> <p>・学校運営における課題と対策を速やかに教職員全体で共有できる体制を徹底する。</p> <p>イ・あらゆる業務が効率的で効果的となるよう、クラウドサービスやWEB 会議システム等の ICT を活用し、会議間の情報共有を密にする。</p> <p>ウ・「カリキュラムチーム」を起ち上げ、生徒自身が自分のライフスタイルにあった登校日と受講講座を選べるカリキュラムを構築する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・経験年数の少ない教職員を対象としたOJT や教員の自主研修を実施する。また、校外研修等の成果を伝達する機会を設ける。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員が意欲的に取り組める環境」の肯定率80%以上を維持する。[87.5%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員の意見が反映」の肯定率85%以上を維持する。[100%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断における項目「教育活動についてよく話し合っている」の肯定率85%以上を維持する。[100%]</p> <p>・ストレスチェック総合健康リスク 100未満を維持する。[72]</p> <p>ウ・令和8年度入学生に向けた広報のための資料を作成し、学校ホームページに掲載する。</p> <p>・秋季入学者選抜における編転入学者数8名以上をめざす。[8名]</p> <p>(2)</p> <p>ア・OJT や自主研修を年3回以上実施し、肯定率を80%以上とする。[7回、100%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「研修成果伝達機会の設定」肯定率80%以上を維持する。[81%]</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <p>・「教職員が意欲的に取り組める環境」肯定率100%(◎)</p> <p>・「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率100%(◎)</p> <p>・「教育活動についてよく話し合っている」肯定率100%(◎)</p> <p>・ストレスチェック総合健康リスク 86(◎)</p> <p>ウ広報のため資料を作成しホームページに掲載した。(○)</p> <p>また、広報を強化し、府外より学校視察2校あり(◎)</p> <p>・保護者向けブログ20回</p> <p>・生徒向けSNS発信46件</p> <p>・内容の改訂</p> <p>・秋季入学者選抜における編転入学者数10名(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・OJT や自主研修 年7回実施、肯定率100%(○)</p> <p>・「研修成果伝達機会の設定」肯定率93.3%(◎)</p>
---------------------------	---	--	---	---